

中国における素質教育のための学校建築計画に関する研究

範, 懿

<https://hdl.handle.net/2324/1807047>

出版情報：九州大学, 2016, 博士（工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

氏 名 : 範 懿

論 文 名 : 中国における素質教育のための学校建築計画に関する研究

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

経済が急速に発展してきた中国社会では貧富の差が拡大すると共に、都市と農村間の教育力・学校施設の格差も広がっている。また、長らく応試教育という知識偏重教育が学校教育の中心的イデオロギーであったが、1980年代後半から実施されている教育改革の中で、素質教育という自主性や創造性を重視した教育方針が施策として掲げられている。しかしながら、学校施設の現状は標準的計画が主流であり、「素質教育」を実践する場としての教育空間、例えば、日本の学校施設におけるオープンスクール、少人数学習スペース、多目的スペース、学習コーナーなどを実践しているところは少ない。一方、農村では、建築設計者とNGOの協力の下、台湾の1999年の「921大地震」以降展開していた「ニューキャンパス運動」を参考にするなど都市にはない空間を備えた「希望学校（中国の貧困地域の児童を修学させるための募金や寄付などの活動により建設された学校）」と呼ばれる個性的な学校施設が多く見受けられる。その中には、四川大地震や青海地震などの地震後に再建された学校も多い。

本研究では、中国の学校建築の歴史的変遷を辿り、「素質教育」の内容をより深く分析し、都市部における学校建築の利用現状や計画現状などを明らかにする。また、農村部における「希望学校」の建築計画の特徴を把握しながら、プロジェクトの計画・建設プロセス及び学校が現地の教育や地域社会に与えた影響を明らかにする。さらに、台湾の「ニューキャンパス運動」により建設された学校の利用特性、地域社会との繋がり、計画プロセスの特徴などを明らかにする。このことは都市と農村間の教育施設・教育の格差是正、震災復興などの学校再建に対する建築計画上の指針に繋がり、標準的計画からの脱却を目指そうとする今後の学校建築に示唆を与えようと考えられる。

第1章では、研究の前段階として、背景と目的、研究対象地の選定、研究の方法、既往研究を述べる。

第2章では、中国の学校建築の歴史を整理し、学校建築が大きく変化した際の歴史的背景、またその時期学校建築計画及び教育方針の特徴を検討することにより、教育と学校建築の変遷を総括し、現在にも通じる課題を明らかにする。

第3章では、まず、中国における初等教育の位置づけなどについて概説する。次に、「素質教育」の内容、発展過程、成果、現状の問題及び「素質教育」に対応する空間の特徴の分析を通して、「素質教育」に関する現状と「素質教育」に対応する空間の特徴を把握する。

第4章では、中国の都市圏を中心とする小・中学校の現地調査、教育関係者・建築設計者に対してヒアリング調査及び近年設計された学校のプランニングの分析を行うことにより、都市部における小・中学校の「素質教育」の実施状況、学校空間の利用状況、設計機関における学校計画の現状、「素質教育」を実践する学校計画に関する課題・意見を明らかにする。

第5章では、まず、中国の農村部における「希望学校」の定義や特徴などを説明する。次に、調査対象となる31ヶ所の「希望学校」の建設背景、建設年代、分布について把握し、意匠・空間・地域との関係性などの視点から計画コンセプト、校舎配置、教室・オープンスペースの構成、建築構法・技術・材料及び地域社会との連携に関するプランニングに対する分類と分析を行う。

第6章では、「希望学校」の建築設計者へのヒアリング調査により、プロジェクト始動の経緯、建設資金の調達、計画・建設のプロセス(計画の検討・決定及び計画・施工に関わるメンバーの役割)、竣工した学校に対する利用実態の調査・評価及びメンテナンス、計画・建設のプロセスにおける課題、設計者の計画コンセプトについての考えなどを明らかにする。

第7章では、「希望学校」の利用実態調査により、空間計画と教育プログラムとの関係、学校が農村部の教育に与える影響、学校と地域社会との連携、ユーザーの使用評価・要望及び課題を明らかにする。

第8章では、まず、震災後の「希望学校」の再建において重要な参考事例となった台湾の「ニューキャンパス運動」が発生した背景・経緯、基準、特徴、成果及び影響を分析する。次に、「ニューキャンパス運動」によって建設された学校の現地調査を通して、学校の利用特性を考察、分析する。さらに、教育関係者に対して、空間的に優れている点や変化した点、改善点、学校と地域の連携等についてヒアリング調査をし、比較・分析を行う。また、学校建築の設計者に対するヒアリングを通して、設計のプロセスや空間設計方法、設計基準及び今後の台湾の学校設計の方向性に対する意見や要望なども明らかにする。

第9章では、まず、各章の内容及び本研究の内容をまとめる。次に、提案の出発点として、学校教育・人材育成、建築計画と教育格差是正・災害復興・地域が抱える様々な社会問題の解決との関係性を検討する。それに基づいて、各地域の特徴や特色に焦点を合わせ、多様かつ選択可能な教育プログラム、及びこれらの教育プログラムの展開に適合する学校建築計画、計画・建設プロセスを提案する。